

今日のポイント

- ・士師とはどのような人々でしょうか。
- ・士師の特徴はなんですか。
- ・士師たちは完全な人物だったでしょうか。
- ・欲望に対処するすべは何でしょうか。

【士師の時代】

「士師」とは、「さばきつかさ」とも訳されるイスラエルの政治的宗教的指導者のことで、カナン征服から王国設立までの期間に活躍しました。聖書には 12 人の士師が登場します。その名前と主な行動、おおよその年代と士師記に描かれている箇所は次の通りです。士師たちは、みながイスラエル全国のさばきつかさであったわけではなく、主としてそれぞれの地方のリーダーでした。それぞれの活躍期間も、例えばエフタとサムソンのように重複しているものと考えられています。

表 2.1 12 人の士師

士師の名	主な行動	年代	箇所
①オテニエル	アラム人からイスラエルを解放	前1200年	3章
②左ききのエフデ	モアブ人からイスラエルを解放	前1170年	3章
③シャムガル	牛の突き棒でペリシテを打つ	前1150年	3章
④デボラとバラク	カナン北部の王ヤビンを討つ	前1125年	4-5章
⑤ギデオ	ミデヤン人を撃退	前1100年	6-8章
⑥トラ	23年間イスラエルをさばく	・	10章
⑦ヤイル	22年間イスラエルをさばく	・	10章
⑧エフタ	アモン人を討つ	前1070年	11-12章
⑨イブツァン	7年間イスラエルをさばく	・	12章
⑩エロン	10年間イスラエルをさばく	・	12章
⑪アブドン	8年間イスラエルをさばく	・	12章
⑫サムソン	ペリシテと戦い、20年間イスラエルをさばくが、非業の死。	前1070年	13-16章

士師の時代を象徴するような言葉があります。「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。」(17:6、21:35)です。すでに出エジプトから、200年近く経っています。イスラエルは神から約束されたカナンの地を攻略しようとしているのですが、なかなかそれが進まない停滞の時代です。イスラエルが偶像礼拝に陥ると侵略者に支配される。する

と神が士師を送り助ける。けれども、その士師が死ぬとまたもや偶像礼拝が始まる。この同じパターンが延々とくり返されるのです。けれども、神の愛はイスラエルから離れることはありません。イスラエルを戒め、助け裏切られては、また戒めて、神は延々とイスラエルに寄り添い続けるのです。その忍耐強い愛は驚きです。

【怪力サムソン】

士師たちの多くははなはだ不完全な人々でした。エフデは卑怯な手段で暗殺を行った人物ですし、聖書配布で有名な団体に名を残すギデオンもその終わりは芳しいものではありませんでした。けれども、神はこのような人々を用いて共に働くことを好まれました。神はいつも完全な聖徒を作り上げて、それから仕事にとりかかるといことはしません。不完全な人々を用いて、それでも計画を進めることができる力を持っているのです。その動機は不完全な人々への関心と愛から出ています。私たちもまた不完全な一人ひとりですから、このことの持つ意味は大きなものです。

士師記の中でもっとも多く記述があげられているのはサムソン。彼こそはその功績においても、また不道徳においても突出した人物でした。それではここで、士師記の13章から16章を朗読していただきましょう。長い部分ですので交代でお願いします。

母がサムソンを懐妊するときから、彼には特別な神の期待がありました。生まれてからはナジル人、すなわち特別な誓約を神に捧げた者、として育てられました。ところが、奔放な情欲と怪力を振り回す乱暴さによって次々とトラブルを引き起こします。トラブルの相手は、ペリシテ人です。結果としてイスラエルはペリシテ人の圧政から守られていくのですが、どうも感心するわけにはいきません。神はサムソンの行動を是認しているのではないようですが、そのことをもイスラエルのために用いられます。イスラエルを通して全人類を贖う（救う）という大計画のためにです。

【マネー・セックス&パワー】

それにつけても、サムソンの女性への執着、とりわけペリシテ人と通じていたデリラに、自分の力の秘密を打ち明けてしまうというできごとには愕然とさせられます。けれども現代でも多くの男女が誘惑に負けて、社会や組織に対す

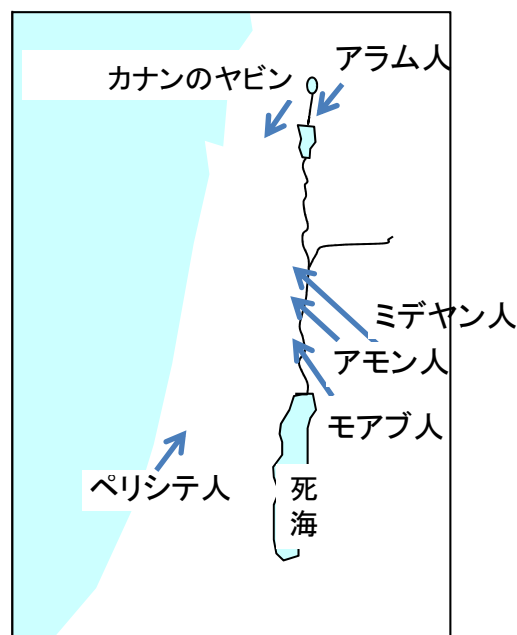


図2.1 士師の時代のイスラエルの敵

る背信行為を行ってしまうことを考えるならば、これは人がみな抱えている弱さの表れなのでしょう。異性だけではありません。他にも私たちには様々な弱さがあります。かつて私の本棚の「マネー・セックス&パワー」という本を見た友人が「人生の問題のすべてだな」と言ったことがあります。「すべて」ではないかもしれませんが、たしかに誘惑は私たちの人生の大きな問題です。

これまでもお話ししてきた通り欲望そのものは、神が造られたよいものです。けれども私たちはしばしば欲望を歪んだ形で実現しようとします。また、欲望をコントロールできないで、逆に欲望に支配されてしまうときに神と人との関係が損なわれていきます。青年期にはセックス、壮年期にはパワー、老年期にはマネーが執着の対象になるとも言われますが、実際ははるかに複雑でしょう。西方教会（主としてローマン・カトリックとプロテスタントのこと）最大の教父（教会の基礎を造った指導者たち）アウグスチヌスは『告白』の冒頭で「神よ、あなたは私たちをあなたに向けて造られました。私たちはあなたの内に安らうまでは安らぎをえません」と書いています。またパスカルは『パンセ』の中で「人間の心には神の形をした空洞がある。神のもとに帰るまでは何をもってしても空白は埋まらずむなしさは満たせない」という意味のことを述べています。私たちは欲望が充足されれば（あるいは適度に充足されれば）、幸福になることができると考えているところがあります。けれども聖書によるならば、幸福は神との関係にあります。神との健やかな関係にあるとき、私たちは自分の欲望の充足を超えた幸福を得ることができます。そして欲望を正しくコントロールすることができ、欲望のために他人を貪ることからも守られるのです。神との健やかな関係は、ときには欲望の充足を手放すことさえも容易にします。

【偶像礼拝の問題】

反対に神との健やかな関係が損なわれているならば、私たちの生活は欲望に支配される危険にさらされることとなります。聖書の教える神以外を崇めることを聖書は偶像礼拝と呼んで厳しく戒めます。なぜなら人が頭で考え出した神は、人間の欲望の投影だからです。偶像を拝むことは自分の欲望に仕えること、それは、結局は自分をすり切れさせていくことになるのです。

コラム ユダヤ三大祭

イスラエルの男子は「年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない」（出エジプト記 23:14）と命じられていました。士師記の時代に、これがどれほど実際に行われていたかは不明ですが、その概要を整理しておきましょう。

	過越の祭り (ペサハ)	七週の祭り または、刈り入れの祭り (シャブオット)	仮庵の祭り または、収穫祭 (スコット)
ユダヤ暦	ニサンの月 15 日から 1 週間	シバンの月の 6 日	ティシュレの月の 15 日から 1 週間
2013 年の例	3 月 26 日～4 月 1 日	5 月 15 日	9 月 19 日～25 日
目的	出エジプト、つまりイスラエル民族の贖い(救い)を記憶し神に感謝する。	収穫を神に感謝する。	エジプトから脱出して荒野で40年間仮小屋で過ごしたことを記憶し、神の守りに感謝する。
律法による規定	羊と牛をいけにえとして献げ(申命記 16:2)、酵母入りのパンを食べず(出エジプト記 12:15)、1 日目と 7 日目に聖なる会合を開く(出エジプト記 12:16)。	小麦の収穫期が始まるころなので、新しい小麦粉で作ったパンが奉献物として捧げられた(レビ記 23:17)。	イスラエル人すべてがその祭の 7 日間は木々の大枝となつめやしの小枝からできた仮小屋に住むよう命じられ(レビ記 23:42)、7 日間神殿でいけにえがささげられ、初日に 13 頭の雄牛と、その他の動物、その後雄牛は 1 日に 1 頭ずつ減らし、7 日目には 7 頭、合計 70 頭の雄牛がささげられた(民数記 29:12-34)。そして第 8 日目には荘厳な集會が持たれ、1 頭の雄牛、1 頭の雄羊、そして 7 頭の子羊がほふられた(民数記 29:35-36)。
現代ユダヤの習慣	家庭でセデルと呼ばれる夕食の儀式を行う。説明とともに 6 種類を食す。1)マロール (苦い菜) エジプトでの奴隷の苦難を表す 2) カルパス (野菜)エルサレム神殿時代を表す前菜 3) ハゼレット (もっと苦い菜) マロールと同じ 4) ハロセット (くるみとりんごを交ぜたもの) エジプトで奴隷であったときのレンガ作りの象徴 5) ゼロア (子羊の前脚ロースト) 神の強い手と過越しの羊をも象徴 6) ベイツァ (卵) 神殿があつたころささげられた犠牲の象徴。または神殿喪失を嘆く象徴とも。	トーラー(律法)の学習、ルツ記の朗読などが行われ、食事には肉を使わず乳製品を食べる。	スカー(仮小屋、複数形がスコット)を作って、中に座り食事をする。中には寝る人も。
			